

平成 30 年度第 1 回うきは市総合教育会議 議事録

1. 日時 平成 30 年 11 月 19 日（月）開会 10 時 閉会 11 時 35 分

2. 会場 うきは市役所 2 階応接室

3. 出席者

◆委員（敬称略）

市長 高木 典雄

教育長 麻生 秀喜

教育長職務代理者 西見 修一

教育委員 處 愛美

教育委員 内山 勝之

要綱第 4 条出席者 沼田みより 沼田塾（ライフ・コーディネーター・色彩心理カウンセラー）

事務局 企画財政課、学校教育課

4. 議事 (1) うきはに移住した感想など／沼田塾 沼田みより

(2) 質疑・意見交換

(3) その他 次回の協議事項について

5. 議事録

○開会

○市長あいさつ

○事務局より出席者紹介

●市長

それでは、議事次第に沿って進めさせていただきます。意見聴取ということで、お忙しい中、沼田みよりさんにお越しいただきました。うきはに移住された感想なども含めて諸々のお話をさせていただきたいと思います。その後皆さんと意見交換に移りたいと思います。よろしくお願いします。

●沼田さん

沼田みよりです。よろしくお願いします。市長さんとは小塩を訪問して下さったときにお会いしてそれを機会にお話しさせていただくことがあり、一母として、小塩に移住して来た者として、純粋にどんな経験をしてどんな思いがあるかをお話ししていきたいと思います。（以下、説明）

●市長

ありがとうございます。コンパクトにお話をまとめていただきました。今から質疑・意見交換ということですが、最初に私のほうから。「自由の森学園」は中学校、高等学校ということなんですが、大体どのくらい子どもさんがいらっしゃるんですか、全寮制ですよ。

●沼田さん

いいえ。近くの子とかは東京あたりから 1 時間くらいで来ます。通学が多いです。寮は北海道から九州まで遠いところからいらっやっています。人数は普通の高校と同じくらい。1 クラス 30 人で 6~7 クラスですね。

●市長

お話によると、この自由の森学園に到る前はお子さんと一緒にいくつも色んなところをご検討したということですが、こういうスタイルの学園というのは日本にはいくつもあるんですか？

●沼田さん

いくつかあります。方針が違い、自由を厳しく教育したり、毎日の生活を自分でできるよう教育するような学校もあるし、枝分かれをしていくつかあったり各地にもあります。

●市長

3年間息子さんを全寮制に預けられてその間、何回も学園を訪れたということなんですが、相当行き来されたんですか。

●沼田さん

そうですね、行きたくなるんですよ。行ったら本当に元気になるんです。子どもたちの姿を見て。それは全国のお母さんたちもそうみたいで、音楽祭とか2日間釘付けで音を聞いて、2日目はパフォーマンスで予選があって勝ち抜いた子たちだけがパフォーマンスできるんです。体をずっと叩きながら音を出してそれを音楽にしたり、学校の道具を使ってオーケストラをしたりとか。トイレのデッキブラシとか体育館のバケツを使ってミュージカルをしたり。そういうのがすごくおかしくて、「よく考えるな、こんなこと」って。ピーターパンとか普通飛ぶと思うじゃないですか、危険なことをするのかなと考えていると台の上にスケボーで出てくるんですね。一番下から飛んでいるように見えるんですよ。そういうことをいっぱい考えて、エネルギーが湧くというか。

教育に関しても感性を育てて、学習発表に1回行ったんですけど、廊下に課題が貼っていて、「恋文」というテーマで。自分がラブレターを書くとしたらどんなラブレターを書きますかと。ものすごく凝縮した1行を書いている子やすごく長い文章で書いている子、歌を作っている子、それをお母さんたちが読みながら何故か泣いているんです。素晴らしいのは保護者が戦争や性教育について企画し、お母さんたちが子どもそっちのけで勉強し合っているんです。その中の一人が「沼田さんも3年間だけ東京にアパート借りて住んだら？自分も成長できるよ」と。「子どもの学費で親まで育つんだよ。」と言われて本当に行こうかと思ったくらい。学園はオープン当時から赤字で、寄附を元手にバザーをしてお金を少しでも増やしていくということを全部保護者たちがやっていますし、お金の詳しい人たちが増やしていくことを考えながら貢献しているという感じです。

●虚委員

とても素敵な学校だなと思ったんですけど、この総合教育会議でうきは市の教育はどうするんだという視点で考えたらどこまでできるか。うきは市の教育を考えてどうすればいいんだろうなというのが正直なところ。今、文科省でそれぞれの子どもの個性に合った教育の進み具合、ポートフォリオとか色んなことを言われていますが、それぞれの子どもの個性に合った教育のカリキュラムとかそういうものも考えていきたいと思いますと言われてはいるんですが、そういうものここでやられているような自由な発想で子どもの個性を伸ばしていく教育というのが、これから先の日本の教育でどこまでできるかなと思いがらお話を聞いていました。みんながみんなこんなふうにはできないだろうし、沼田さんが自分は自由な母親のつもりだったとおっしゃっていたんですけどその通りだと思うんですね。だからこそお子さんを学園に入れる決断をされたと思うし、普通の田舎のお母さんにはできない。いじめられた子どもを抱えて悩んだり、逆にいじめてしまう子どもの心の間に気づかない家庭も多分ある。そこをフォローしていくのと、AIに取って代わられることもシンギュラリティもやってこないだろうと私は思うんですけど、それに打ち勝つ子どもたちを、そこで人間らしく生きる子どもたちをどう育てていくかと、色んなことをやらなければいけない中で、市長どうしましょう。

●沼田さん

最初に大事なことを言うのを忘れていました。この学校のことをお話しして、こうしてくださいということではなく、例えば自分が中学3年生で今から受験というときに「こんな学校あるよ」と言われたらどんな気持ちになるか。聞いていただいて難しいということはわかっていますし、この学校にも矛盾したところがあると思うんですね。不良っぽい問題行動がある子どもがいるとか、あると思うんですね。じゃないとおかしいと思うんです。なので、こういう学校もあるよと。話していて1番良い例が、うちの夫は「僕が行きたかったな」と言ったのが一言目だったんです。だから「行きたいな」と思ってくれるような学校、卒業式に人の子どもの卒業式なのに来たくなる。成長が嬉しい、感動したいと。その卒業式で一番印象に残っているのは1日も休まなかった子に小さな賞状があるんですが、何十人もいますよ。その子たちはぴよんぴよん跳ねながら貰いに行くんです。「毎日楽しくて来たかったんだ。」と

いうことを言っていたので、羨ましいなと思って。

一つでもこうじゃなからうかとヒントになるようなことを今の教育制度の中にちょっと入れられるようなことを私はアドバイスできないですが、何かヒントになればと思う程度で、息子のために選んでそれで学んだということです。中学校から入学した子は高校では自由度が違って、そういう子たちがクラスに上手く配分されていて引っ張っていくようになっていて、変なことをしても何で笑うんだと。合唱でも、高校から入った子は真面目に歌っているのに、中学校から入っている子はコーラスなのに踊りながら歌ったりとか合いの手まで入れる子がいたり。そういう子を見たら何やってもいいのかと思うじゃないですか。なので、そういうあたりがキチッと配分されていて。オープンスクールに行ったときに息子は1泊して全部記録されていました。オープンスクールで学んだ感想など入学前に綴じられていて、母親の考え方も記録されていました。どういう意識で見守らなければいけないか、母親の教育というのも自然とされているんだろうなと感じました。

●内山委員

自由の森学園で親としてもいい経験をされたんだなと思いました。息子さんももう大人ですよ。今どういう方向に進んでいるのかということが1つと、英語に関して英検3級をとっても話すことが大事なんだよということで話せるようになったのかなということをお聞きしたい。

●沼田さん

自由の森学園ではレポートを書き慣れているので、プレゼンテーションが上手いんですよ。だから推薦枠にもものすごく強いんです。国立の学校には発想力とかそういうので受けられるような学校があり、入れる子が多いんです。進学もしますが浪人もしますね。浪人をするのはぎりぎりまで高校生活を楽してみたいから。「僕は大学に行くために高校に行っているんじゃないんだ」と。だからぎりぎりまで高校生活を楽しむことで両親と相談して、それから勉強して大学に行く子も多いんですね。うちの息子は自由の森学園と似た気質がある学校に行きました。彼は音楽が好きなので映像の配信をしながら音楽と触れ合っていますがどうなるかは私も不安です。不安だけど頑固で自分が決めたとおりにしかやらないので、自分で決めるというのをやり続けることが大事だろうなと思って。うきはに帰ってくるようには言っています。

●西見委員

お話の中で、子どもに任せられる隙間があるという表現をされました。現実問題として、うきは市内の中学校もそうかもしれませんが、学校だけに限らず母親父親の立場から現代の大人たちが子どもに任せられる範囲を中々決めきれないでいるというのがあると思うんですね。経験された中から子どもに任せられる隙間を作ってあげる立場の大人としてどんなことを心がけたらいいのかなと、お気づきになった点とかございますか。私も悩んでいるお母さんたちの話もいろいろ聞きましたから。

●沼田さん

そうですね、言えなくて苦しい人たちがたくさんいらっしゃるんですね。それと学校との懸け橋になる立場をとれたらいいなと思っています。お母さんたちが学校に相談したいけどどう言って行ったらいいのかわからないとか、先生と相性が合わないのだけれど、どういうふうに校長先生に言ったらいいのだろうか、そういう話がいっぱい私の所に入ってきて一緒に考えるんですが、自由の森学園の先生たちは信頼できますね。優秀ではないかもしれませんが、信頼という意味では生徒を信じていてくれる。自由だから髪の色が金髪の子とかいるんですよ。同じクラスにアフロと金髪の子がいたんです。高校1年ですよ。啞然として。こんな子と一緒に田舎者の息子は大丈夫だろうかと思ったんですが、先生が一言「お母さん。人は見かけによらないんです。見かけで判断しないでください」とビシッと言われて。「中身で見て下さいね。それだけは初めからお伝えしておきます」と、子どもの気持ちを大事にしてくれて。1回息子が携帯を無くした時に誰かが持って行ってしまっ、「自分が置きっぱなしにしたんでしょ」って怒った話をしたら、「お母さん何を言っているんですか。自分の携帯を盗みに近いことをされたら怒るのは当たり前でしょ。息子が怒るのは当たり前です。その気持ちで僕は動きます」と言

ってみんなと話し合ってくれたんです。先生たちは訓練されてるんじゃないかなと思います。子どもを信頼してくれているという感じかな。

●西見委員

中学校の部活動の話がありましたが、かつての部活動はそうでした。私も経験があります。休めるのは盆と正月くらいですね、土日に休んだことはなかったです。日曜日に練習試合があれば土曜日に休むなんて考えられないですよ。休んだらお母さんたちから「何故練習しないんですか」と叱咤激励がありました。現在は制度も変わりましたからうきは市内に限らないと思うんですが、週2回休んでいます。

今、吉井中学校の吹奏楽部に行っていますが、感心するのは運営は子どもたちがやっています。4時半に2分間だけミーティングがあります。そこで顧問教師が今日はこうしますと言って帰っていきます。後は、外部指導者とか副顧問が一人いますので最後のミーティングにまた来ます。普通の場合です。顧問がしているのが合奏の練習があるかないかです。あと全て3年生がやっているんです。3年生が1、2年生の意見を聞きながら。これは良いなと思いました。そして1年生が3年生に対して堂々と言います。全部とは言いませんが、市内の中学校の部活動が変わりつつあるというのが現実かなと思います。これは本当に感心しています。

●沼田さん

学校の先生たちのケアをさせていただいたことが過去にあって、もうボロボロですね。気持ちも保つのが大変だと思いますし、身体も疲れ切っています。家族はお父さんがいない日々が続くのでどうしてこんな状態になってしまったのかなと今になって思います。うちの母が教師だったので、私も絶対教師にはなるまいと思ってました。

●麻生教育長

私もうきは市の教育に生かしたらいいなとずっと考えておりました。こういう学校があるという情報を保護者の方にお知らせしないといけないと思いますし、子どもたちが自分の進路を考えたとき自分がこういう学校に行きたいと言えるだけのものをもっておかないといけないかなと思いました。

浮羽中学校では1年生から高校1日体験をしています。職業とは何かというのを学習したり。それでも子どもにどこまで届いているかわからないので、教師、保護者、生徒でゆっくり話さないといけないかなと思います。3者面談も前倒しして1年生から始めることも有りかなと。情報提供などそういったものを柔らかくやっという学校と話してみたいなと思っております。大変参考になりました。

●市長

沼田さんのお話をうきはの教育にどう生かすかということなんですが、同じことはあり得ないと思うんですが、今まで総合教育会議の中で話を進めてきてかなり教育環境が変わってきていますよね。差し迫っているのが、大学の入試改革。センター試験が無くなる。2020年に学習指導要領の大改革。全部沼田さんの話と符合するのではないかな。一つは、英検3級検定の話で、大学入試改革も今までは聞くことと読むこと。今後は話すことと書くこと。そういう中で英語教科が小学校5年生、前段の英語学習は3年生から学習指導が大きく変わります。

その一つが知識の丸暗記型の学校教育ではなくて思考力とか判断力とかあるいは表現力、プレゼンの話が出ましたが、まさに表現力を磨くようなそういうことが今求められてきているし、大学入試ではマークシートと一部記述で思考力を試すように変わってきています。片や、学習指導要領はアクティブ・ラーニングで子ども同士で語り合いながら深い学びをやっという。自由の森学園の話そのものが、今からの教育の改革に生かされようとしているなと思ってます。

もう一つは、一昨日、オランダの室内管弦楽団をお呼びしてコンサートをしたんですが、我が国が大きな転換点というか、例えば一昔前、失われた10年とか20年、完全に失われて30年なんですが、そういういい方をする人がほとんどいなくなりました。失われた10年、20年というのは日本の経済が長期的に低迷しているんですが、この「失われた」という語源問題は先祖帰りというか、再び日本に日が昇って高度成長をするのではないかと期待感の中に失われた10年という表現なんですが、誰もそうい

うことは思ってなくて、完全に踊り場というか大きな社会構図が大きな転換期に来ている。国民も全て物の豊かさから心の豊かさに価値観がほとんど変わってきている、次に日本の社会構図はどうあるべきかとみんなが模索しているときに、過去の先例というか過去の栄光は通用しなくてゼロからの発想で何かを創造しなくてはいけない。創造する世界が求められている。我々行政もその延長線にいて地方創生というのがまさに前例のないことを創る創生、創造していかなくてはいけない時代が来たときに、大事なのが文化力、感性豊かな人材育成をしないと地域を創造する人間は出てこないだろうとこういうことを言われています。演劇作家の平田オリザさんが言ってるんですが、これからは文化の自己決定能力をどう育てるか、そういうことを常に考えて総合教育会議でも議論をして、大綱の中にリトミック教育を入れるとか、文化を教育の中に入れ込もうという議論をしておりますが、そういうことを考えると自由の森学園の教育方針が私の中にピッタリくっついてしまったので、今日はお忙しい中、沼田さんにおいていただいて学園の話は是非とも知っていただくということでお話しして頂きました。本当にありがとうございました。

一つだけお聞きしますが、ライフコーディネーターと色彩心理カウンセラーをされております。特に色彩心理カウンセラーは、お子さんの成長に合わせて絵画の色遣いを見ると子どもの心理が読み取れると。今、沼田さんがやられているのが、子どもの絵画の色遣いの中でこの子は何を悩んでいるのかとか、何に課題があるかということをお仕事というふうに捉えていいんですか。

もう一つはライフコーディネーターというのは色彩心理と繋がるようなことなのか、最後にお聞きしたいと思います。

●沼田さん

色彩心理は、福岡にいたときに10数年間、美術の先生や幼稚園の先生と一緒に養成講座をプランニングしてました。子どもが自由に表現するのがベースなんですね。自由な表現というのがなぜ大切かということと表現することの意味とかを養成講座で提供しながら私も学んでました。こっちに帰ってきてポジションを考えたら子どもが好きなので、子どもが元気でいてほしいと思ったりお母さんが元気でなくてはいけないということに気が付いてそれで子どもとお母さんの手助けとなったり、子どもが何を考えているかを読み解くだけではだめなんですね。読み解くというのは訓練すればできると思うんですけど、読み解いたものというのは例えばお母さんがどうそれをキャッチして子どもに生かし寄り添うか、だから私はサポートだと思っています。読み解いてあげるのは学者の方で色々やってらっしゃると思うんですが、お母さんが子どもを叩かなくていいようになるとか子どもが叫んでる声をキャッチできるようにお母さんとお話をしながら、子どもは自由に絵を描いたり。子どもは何もコメントしません。お母さんのサポートですね。

●市長

子どもさんをサポートするのではなくて、お母さんにサポートするんですね。

●沼田さん

お母さんが子どもに寄り添う術を、子どもとの距離を縮めてもらったり気持ちを分かってもらったり、何が原因でこの子は万引きするようになったんだろうという深刻な問題もあります。お母さんが暮らしの中で一緒に改めていくという感じです。

●市長

この会議で親育ちという言葉が出るので親そのものを育てないと子どもの教育に繋がらないのではないかという話もある。

●沼田さん

色んな方から電話がかかってくるんですが、学校に行きたくなくて、知らない人に石をぶつけられたと嘘をついて警察まで呼んで嘘をつき続けている自分の子どもにどう接したらいいんだろうとか。私とスクールカウンセラーの先生と校長先生と3人で話をして、自分はこういうふうにいるけれど何と声をかけていいかわからないから教えてくださいと言われてたり、橋渡しをしないと直接学校に相談

できないことがあるんだなあ。私も学校教育の場の邪魔をしないで対応していけたらと思ってさせていただきます。

●市長

今、久留米の中で活動中ではありますが、うきはも片隅においてください。

●沼田さん

もちろんしたいです。一人一人のことなので周りの人たちが手一杯という感じですね。だから私みたいに人の話を聞くのが好きな中間の立場の人がいることが理想じゃないでしょうか、もっと。

●市長

はい、ありがとうございます。それではそろそろ時間ですので(3)その他で次回の協議事項についてお願いします。

●事務局

次回以降の協議事項につきまして、後日で結構ですので直接事務局でも構いませんし学校教育課を通して構いません。こんなことを話したいなということがありましたらお知らせを頂ければと思います。

●市長

議事内容が終わりましたが、ご意見等がありましたらどうぞ。

●内山委員

次回の協議事項ですが、英語の教育についてはどうでしょうか。この先外国語が必要になってコミュニケーションを取っていかなくてはいけないので、うきは市としてどう教育していくかを話したいのですが。

●事務局

その辺りの意見を踏まえたところで検討させていただきます。

●市長

その話が出たので紹介したいんですが、学校教育課に古賀文恵さんが10月1日付で市職員に採用になりました。うきは市としては初めて英語枠という試験をさせていただいて、学校教育課で頑張っていると思います。英語の教科が前倒しになる対応もあるし、インバウンドというか如実にうきはも海外の方が多く訪れるようになっていきますので諸々を考えて今回職員採用になりました。そういうことを含めて検討させていただきたいなと思います。處先生何かございますか。

●處委員

それに関して言えば究真館高校の在り方ですよね。インバウンドであったり、うきは市そのものが持続可能な田舎であり続けるためにはどうしたらいいのかというのは究真館高校などとも話さないといけないかなと思います。

●市長

明善高校には学科によってはうきは市から行けないので、移住定住を促進するなか子どもを抱えてる若い世代から見ると通学できる田主丸に住んでしまうというケースが最近多いという。うきはの自然環境が素晴らしいのでここも捨てがたいが、明善に行かせたいということで田主丸に住む子がいるということを目にしています。そういう話ではないんですね。

●處委員

そういう話ではないです。明善はスーパーサイエンスハイスクールで理数科は指定を受けてます。そういうのではなくて文科省の色々な地域の特徴を踏まえた特色ある高校というのをも考えてみたいなと。

●市長

そうですね、今日の沼田さんのお話を頭に入れて、特色ある教育方針を出して持続可能な高校のありかたという議論ですね。今日は長時間ありがとうございました。これで終了したいと思います。

○閉会